

平成 17 年度試験研究成果書

区分	指導	題名	雇用労力活用によるキュウリ作経営の展開方向		
〔要約〕労働生産性の向上を図るためには、経営者と雇用者の役割分担を明確にする労務管理を行うなどの経営マネジメントが必要である。また、キュウリ主業型農家を育成するためには、作型分化により労働の平準化を進め、長期的に雇用労力を活用し、規模拡大を図ることが必要である。					
キーワード	キュウリ	雇用	経営モデル	企画経営情報部農業経営研究室	

1 背景とねらい

農業労働力の高齢化、担い手不足が進行している中で、野菜主業型農家の育成を促進するためには、家族労働力のみにとらわれない経営展開が求められている。また、地域における就労先として農業分野での雇用創出が求められている。

本課題では、本県の重点推進品目に位置づけられているものの、近年作付面積が減少し、新たな振興方策が求められているキュウリについて、主業型農家の実態調査に基づいて、雇用労力の活用による経営の展開方向について検討する。

2 成果の内容

(1) 労働生産性向上のための経営マネジメント

ア 熟練を要する選果作業は経営者が行い、整枝・摘葉作業を雇用者が行うなど、経営者と雇用者の作業分担を明確化することが必要である(表1)。

イ さらに、雇用者に対する1日の作業目標の指示、進捗状況の確認を徹底するとともに、雇用者の中で経験豊富なリーダーの育成を図り、経験の浅い雇用者の作業指導や経営者と雇用者間の連絡調整を任せるなどの労務管理が必要である(図1)。

ウ 労働生産性の向上を図るためには、以上のような意志決定、労務管理を行う経営マネジメントが必要である(表2)。

(2) 雇用労力の長期活用による経営規模拡大

ア キュウリ専作経営を志向している農家の意向を踏まえ、農家の経営収支データを基に、線形計画法に基づき、現状の自家労働時間を最大限に活用し、所得が最大となる改善モデルを作成した結果、現行の作型毎の作付面積をハウス早出し10a、露地35a、ハウス遅出し10aから、雇用労働時間を増加させながら、ハウス早出し24a、露地32a、ハウス遅出し24aに拡大することにより、他産業並の所得水準まで農家所得の増加が可能である(表3)。

イ このように、キュウリ主業型農家を育成するためには、作型分化により労働の平準化を進め、長期的に雇用労力を活用し、規模拡大を図ることが必要である(図2)。

3 成果活用上の留意事項

改善モデルの所得算出に用いた雇用賃金、販売単価は表3の注釈のとおりなので、適用する農家の実態に合わせて所得を推計すること。

4 成果の活用方法等

(1) 適用地帯又は対象者：キュウリ主業型農家、普及指導者(県下全域)

(2) 期待する活用効果：他産業並の所得を得るキュウリ主業型農家の育成

5 当該事項に係る試験研究課題

(H15-01)「果菜作専作経営育成のための省力技術の経営実証」(H15~17、県単)

6 参考資料・文献

土地利用型野菜の労働力確保利用調整マニュアル,岩手農試,1995

野菜作経営における雇用労力活用のポイントと効果,岩手農研,2003

7 試験成績の概要

表1 調査農家における作型別・作業別の役割分担

作型/作業内容	作業の従事者(経営主, 配偶者, 雇用)								
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	
農家 (3作型・作業分担型)	ハウス 早出			I					
	整枝・摘葉				I				
	収穫					I			
	選果・出荷								
	10a その他作業				I				
	露地								
	整枝・摘葉		I	I	I	I			
	収穫				III	III	III		
	選果・出荷								
	35a その他作業			II					
農家 (2作型・未分化型)	ハウス 遅出								
	整枝・摘葉					I	I		
	収穫						I		
	選果・出荷								
	10a その他作業						I	I	
	露地								
	整枝・摘葉			I	II	I			
	収穫				III	III	III		
	選果・出荷				III	III	III		
	33a その他作業			I	II	II	II		

注)、の比較については、同地域内の優良事例を比較する直接比較法とした。(とも栽培経験25年以上のベテランである)

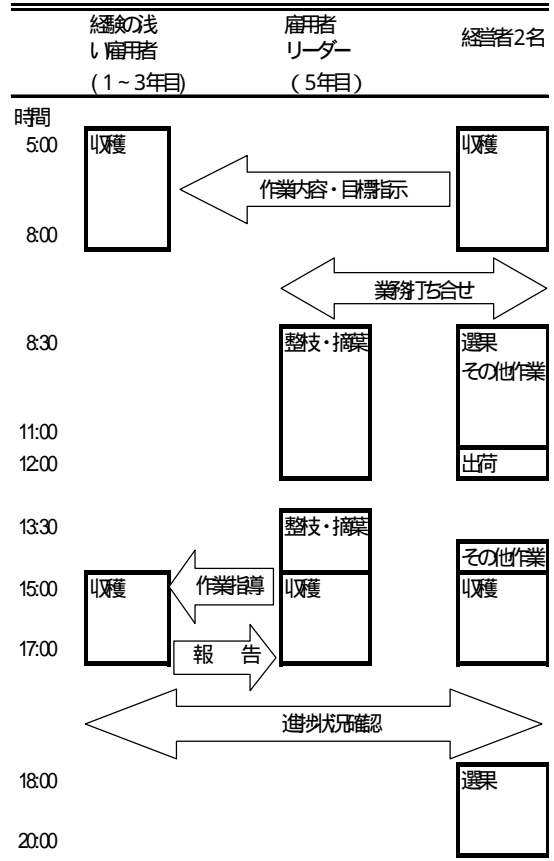


図1 作業繁忙期(7~8月)における農家の作業管理

表2 作業管理方法の異なる農家間の生産性の比較

農家名	作型区分	労働時間 (時間/10a)	収穫量 (kg/10a)	時間当収穫量 (kg/時間)
農家 (3作型 作業分担型)	経営平均	633	7,527	12
	ハウス早出	698	8,108	12
	露地	722	9,143	13
	ハウス遅出	478	5,330	11
	経営平均	1,172	10,559	9
農家 (2作型 未分化型)	ハウス早出	1,398	10,690	8
	露地	945	10,428	11

表3 線形計画法による農家の改善モデル

項目	改善モデル	現行
作付面積	ハウス早出 24a	ハウス早出 10a
	露地 32a	露地 35a
	ハウス遅出 24a	ハウス遅出 10a
所得	5,370 千円	3,712 千円
自家労働時間	3,536 時間	2,529 時間
雇用労働時間	1,593 時間	1,182 時間
雇用支払い賃金	1,068 千円	792 千円
労働生産性	1,519 円/時間	1,468 円/時間

注1 雇用賃金: 670 円/時間 (農作業労働一般の県平均値)

注2 販売単価: ハウス早出 222 円/kg、露地 202 円/kg、ハウス遅出 205 円/kg (16年産の農家データ)

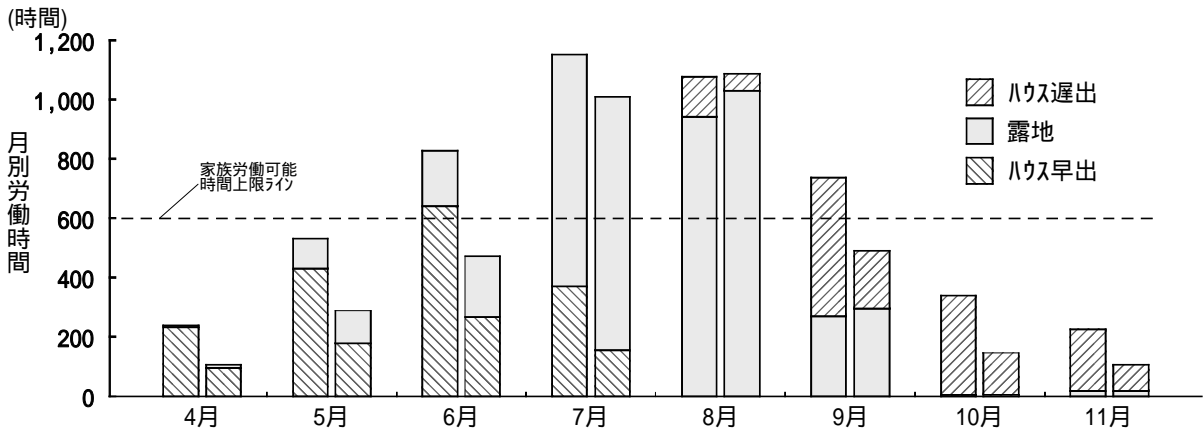


図2 農家の月別・作型別労働時間の比較 左:改善モデル 右:現行